

社会福祉法人 日の出善隣館 令和2年度 事業報告

令和2年度も、信頼性と透明性の確保のため、予算・決算・役員状況、事務執行状況などを、ワムネットで公開するとともに、法人監事の年度末監査と税理士事務所に依頼しての会計監査を受けました。特に、税理士事務所による会計監査は、毎月実施し、法人会計の処理について指導を受け、適正な会計処理に努めました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に明け暮れた1年でした。3月の国の第1回緊急事態宣言発令に伴い、学校の休業は5月末まで継続し、外出制限や感染防止のための日常生活でのマスクの着用、手指の消毒の徹底等、児童に今までとは違う生活を強いることになりました。そのような環境の中でも、1年間、感染者が出なかったのは、子どもたちと職員の協力のお蔭です。また、新型コロナウイルス感染症感染防止のために設備・備品等衛生面での整備もできるだけスピード感を持って進めました。

偕生慈童苑は、年度当初、常勤職員21名、非常勤職員7名の28名の体制でスタートしました。特に前年度から継続の派遣会社からの職員には、ケアワーカーの勤務が忙しくなる時間帯で勤務していただきました。年度途中で、派遣社員1名、調理師1名が退職し、児童の給食面でも対応も難しくなり、調理員の募集をしましたが、応募者はなく、調理師補助の勤務時間を増やし、忙しい時間帯の対応をしました。年度途中で1名のケアワーカー採用がありましたが、年度末に退職となりました。また、職員の人材確保が喫緊の課題ですが、前年度まで実施してきた苑での施設見学・仕事説明会や施設外での仕事説明会もコロナ禍でほとんど実施することができませんでした。その結果、職員に対しては、年間通して、コロナ対応も含めて非常に厳しい勤務を強いることになってしまいました。

職員の資質向上は、「新しい社会的養育ビジョン」に今後対応していくためには、必須のことですが、今年度は、コロナ禍で年度当初から予定されていた研修等が軒並み中止となり、前半は研修の機会がありませんでした。後半にリモートでの研修・会場研修等が少しずつ実施されるようになり、参加の機会はありませんでしたが、リモートは施設内での研修であり勤務との調整が難しく、参加者は少数となりました。

入所児童は、当初28名でスタートしました。途中入所1名、途中退所5名、年度末退所6名、年度末入所1名となり、年度末には19名となりました。年度末退所児の内訳は、自衛隊(1)民間会社(3)GH(1)家庭引取り(1)でした。児童にはコロナ禍で今までとは違う生活様式での生活をしてもらうことになり、不自由を感じながらの1年間だったと思います。今まで実施していた施設外での行事も激減しましたが、機会をとらえては、少人数での行事や外食のテイクアウト等を工夫してできるだけ、楽しく過ごせる工夫をしました。

おくえつ児童家庭センターめぐみでは、1149件(-107)の相談・利用がありました。今年度も大野市の乳幼児健診への心理士派遣や奥越地域の市からの要望にできるだけ対応し、さまざまな状況の子どもたちに対応するよう努めました。また、昨年度から継続して、里親に係る研修やサロンにも積極的に参加し、今後予定されているフォスタリング事業に向けての知見を深めることに努めました。

子育て短期支援事業では、利用者数10名、延べ90日の利用がありました。昨年度から継続してほぼ毎週利用される家庭の他に、休日や家庭の都合、更に不登校対応としての利用がありました。

地域子育てや公益的な事業に関しては、コロナ禍でCSPの研修を今年度は実施できませんでしたが、状況を判断しながら、ボランティアや大学及び専門学校からの実習生の受け入れは可能な限り実施しました。

事業運営 期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

事業種別	事業内容
第1種社会福祉事業	児童養護施設 偕生慈童苑の運営(定員40名、暫定定員34名)
第2種社会福祉事業	①おくえつ児童家庭センターめぐみの運営 ②子育て短期支援事業の実施